

ポジティブリスト対象病害虫の解説

ウイルス病の一種

学名：*Gooseberry vein banding associated virus*

本種は、隔離栽培検査においても、近年フランス産アカスグリ苗から発見事例があり、国内への侵入が警戒されている。また、ニュージーランドにおいても隔離検査の検疫対象ウイルスとされている。

分布地域：オランダ、英国、フランス、ドイツ等のヨーロッパ。

寄主植物：グーズベリー、アカスグリ、クロスグリ等の *Ribes* 属。

病徴：グーズベリーで顕著に現れ、葉に葉脈緑帯 (vein banding) 症状を引き起こす。その後、次第に樹勢を衰えさせ、収量が低下する。アカスグリやクロスグリでもグーズベリーと同様の病徴を示すが、やや不明瞭となる。また、虫媒伝染としてレタスヒゲナガアブラムシ (*Nasonovia ribisnigri*)、*Aphis grossulariae* 及び *Hyperomyzus* spp. によるものが報告されている。

病原体の形態：*Gooseberry vein banding associated virus* は、*Badnavirus* 属に属する二本鎖 DNA からなる植物ウイルスであり、120×30nm の桿形の粒子をもつ。

識別：本ウイルスに対する検査は、上記病徴の有無に注意する他、PCR 法を用いた遺伝子診断が有効である。



スグリ属植物における病徴

最近話題となっている病害虫

高知県農業技術センター 垣内 加奈子

チャノキイロアザミウマ

学名：*Scirtothrips dorsalis* (Hood)

英名：chilli thrips

2008 年 1 月、高知県の施設栽培のシシトウにおいて、チャノキイロアザミウマの加害により新葉が湾曲、変形し、果実や果梗部が細かくひび割れる被害が発生した。本種は国内では茶や果樹の害虫として知られているが、シシトウ・ピーマンへの加害の確認は初めてで、その後、土田ら (2010) により熱帯 (東南アジア) 由来と推定される新系統 (C 系統) による被害であることが明らかにされた。新系統の発生は 2014 年 1 月現在、高知県内 10 市町村のシシトウ、ピーマン、トルコギキョウ、イチゴ、マンゴウ、水晶文旦、レモン、ブルーベリーで確認されている。新系統は 2008 年に沖縄県、2010 年に鹿児島県、宮崎県、熊本県、愛媛県、2011 年に千葉県、2012 年に佐賀県、福岡県、2013 年に栃木県でも発生が確認されている。

シシトウ・ピーマンにおいて、新系統は茎頂部に好んで寄生し、低密度でも新葉の縮れをもたらすため、被害許容水準が低い。防除効果のある殺虫剤としては、スピノサド水和剤、エマメクチン安息香酸塩乳剤、ニテンピラム水溶剤などがあり、天敵であるスワルスキーカブリダニ、タイリクヒメハナカメムシなどによる防除効果も期待できる。



シシトウにおける茎頂部の被害